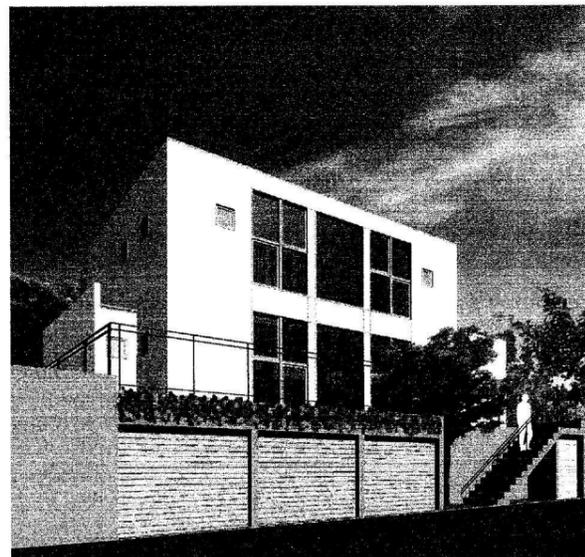


■ 南側栗木町公園からのイメージ

■ 設計趣旨

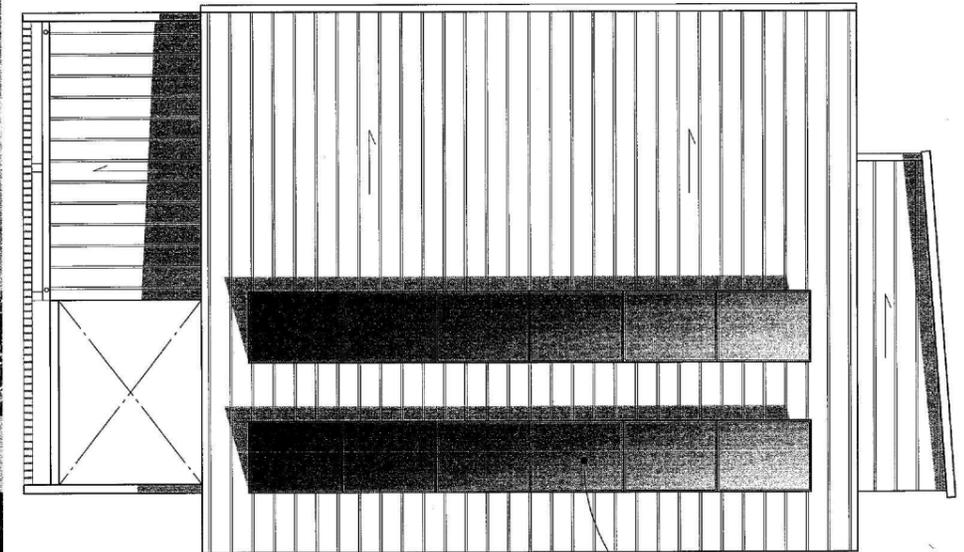
『地域を取り巻く（水資源を育む森林を含め）広域的な環境保全が循環型社会形成を伴い、結果的にその地域の環境保全につながる』と考え、その理念をメッセージとして地域に発信する為、建物に使用する入手可能な木材（構造材・内部造作材）は全て県産木材とします。建物に求められる必要な機能にフレキシビリティを持たせることで、シンプル且つコンパクトなプランとし、そのシンプルなフォルムをシンボリックに表現することで『安心して長く愛され地域に誇れる建物』となることを目指します。



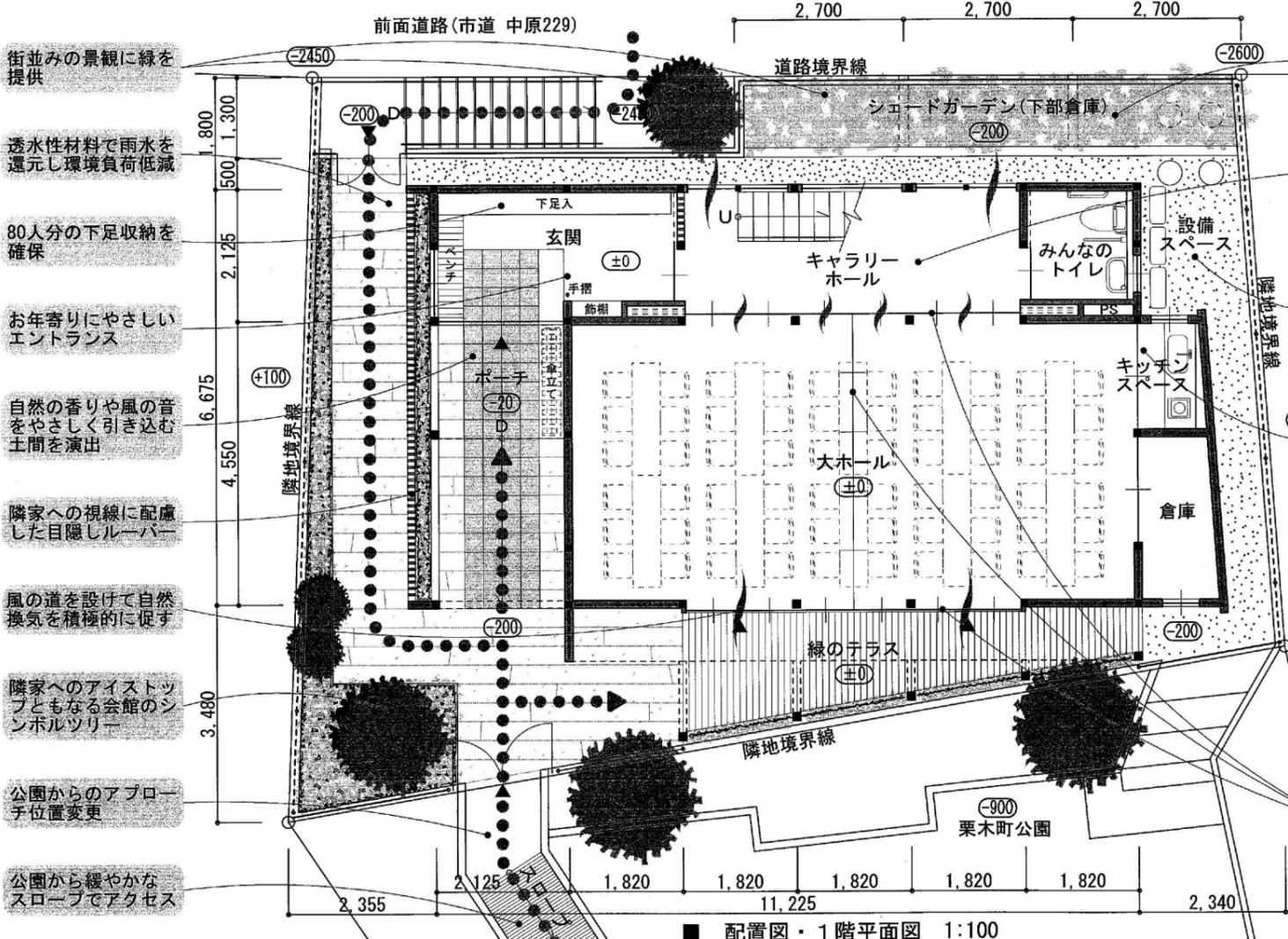
■ 北側道路からのイメージ

■ 面積表

敷地面積	162.49㎡ / 49.16坪	
建築面積	74.60㎡ / 22.57坪	
建ぺい率	45.92% < 50.00%	
床面積	2階	60.75㎡ / 18.38坪
	1階	70.73㎡ / 21.40坪
	小計	131.48㎡ / 39.78坪
外倉庫	8.10㎡ / 2.45坪	
延べ面積	139.58㎡ / 42.23坪	
容積率	86.46% < 100.00%	

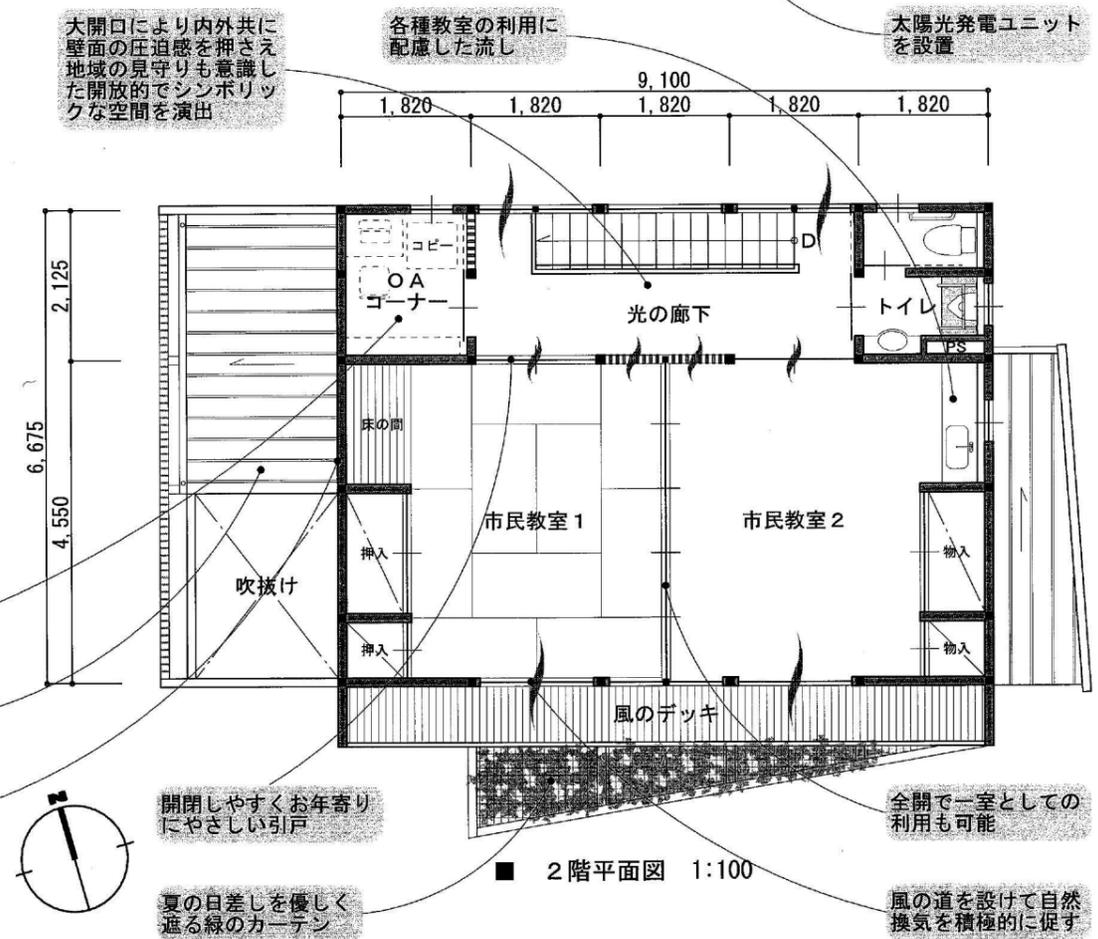


■ 屋根伏図 1:100



- 街並みの景観に緑を提供
- 透水性材料で雨水を還元し環境負荷低減
- 80人分の下足収納を確保
- お年寄りにやさしいエントランス
- 自然の香りや風の音をやさしく引き込む土間を演出
- 隣家への視線に配慮した目隠しルーバー
- 風の道を設けて自然換気を積極的に促す
- 隣家へのアイストップともなる会館のシンボルツリー
- 公園からのアプローチ位置変更
- 公園から緩やかなスロープでアクセス

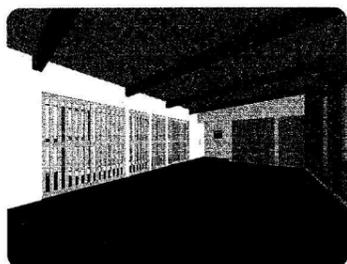
- 新設擁壁を利用した敷地の有効活用
- 廊下でありホールでもある多目的な活用を可能とするパブリックな空間
- 既存ライフラインの接続位置に水周りの諸室を集めインシャルコストダウンとメンテナンス性の両立を図る
- 全開すると大ホールと一体利用が出来るオープンキッチン
- 将来的な自治会のIT化に備える
- 高さを抑え隣家への日照に配慮
- 隣家へ配慮した窓のない壁
- フルオープンが可能とした建具により、フレキシブルな多機能空間の提案



- 大開口により内外共に壁面の圧迫感を抑さえ地域の見守りも意識した開放的でシンボリックな空間を演出
- 各種教室の利用に配慮した流し
- 太陽光発電ユニットを設置
- 吹抜け
- 開閉しやすくお年寄りにやさしい引戸
- 夏の日差しを優しく遮る緑のカーテン
- 全開で一室としての利用も可能
- 風の道を設けて自然換気を積極的に促す

コストコントロールによる計画の実現性

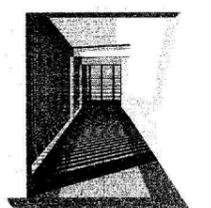
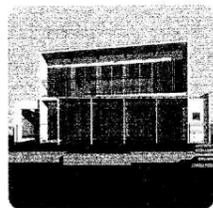
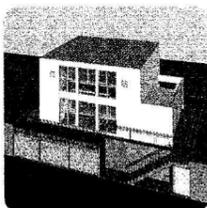
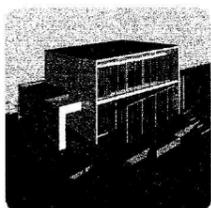
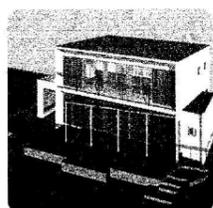
「災害時に避難所として機能する安全性」「県産木材使用を含むエコ対策」の2つを優先課題と位置づけ、建物はバリアフリーを意識しつつ出来るだけコンパクトなボリュームに押さえ、補助金の積極的な活用も視野に予算内での実現を目指します。



市民教室



ギャラリーホール



エントランス

緑のテラス

防災拠点（耐震・耐火）への対応

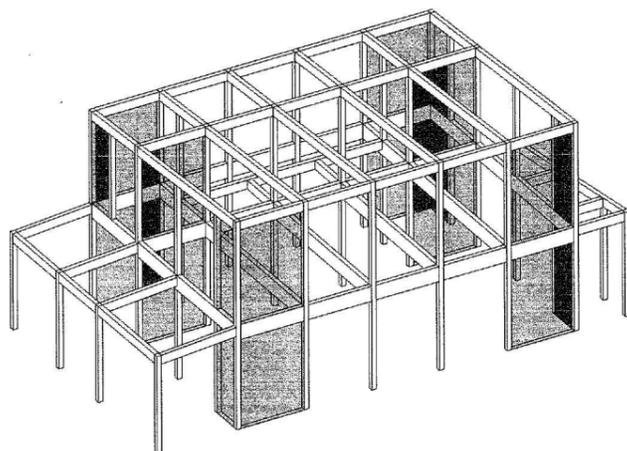
高い耐震性の確保と現況敷地で不安の残る要素の改善、又求められる耐火上の法基準（防火構造）を満足することで、安心して長く使用される建物を目指します。

耐震構造

耐震壁の配置は平面・立面共に均整の取れた計画とし、なおかつ吹抜けの多用は避け、床面剛性の確保により、高い耐震性を目指す。

北側擁壁の改修

安全性の確認が難しい北側の擁壁は取り壊し、倉庫機能を併せ持つ安全な擁壁に作り替える計画とする。



耐震壁配置イメージ

バリアフリー計画

計画条件である公園との連続性を意識し、誰にでも使い易い安全な建物を目指します。

玄関・ホール

建物外から玄関までは高低差を緩やかなスロープにより処理し、建物内では玄関とホールの領域を仕上げの違いで分け、段を設けない計画とする。

ベンチ・下足入れ

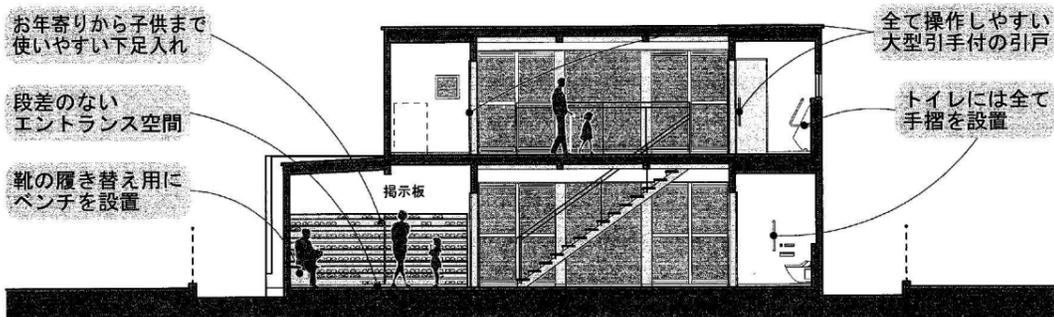
お年寄りや身体の不自由な方も靴が履き替え易いよう玄関内にベンチと手摺を設置。またお年寄りから子供まで使い易い高さの下足入れを計画する。

開閉しやすい扉

扉はすべて引戸で大型の引手を設置し、開閉時の使い易さと安全性を高める計画とする。

公園アプローチ

メインアプローチと考えられる南側公園との段差は公園内にスロープを計画することにより解消する。



断面図A 1:150

エコな自治会館

風光木のある空間を造り、長寿命で環境に配慮した地球に優しい建物を目指します。

風の道

南北にゆるやかに風が流れる開口を設けることにより機械に頼らない自然換気が享受される心地よい空間を計画。夏場施設を使用していないときでも建物内に空気が流れ、熱がこもらないよう配慮。

明るい居室

全ての居室が南側に開口を持ち、自然光をふんだんに取り入れることができる。明るい内部空間を計画。

自然素材仕上げ

内部では構造材である梁を表しとし、仕上げは珪藻土や自然素材を使い、その調湿効果で健康にやさしい建物を計画。

グリーンカーテン

落葉のツル科の植物で夏は日差しを遮り、冬は暖かい直射日光を採り入れる計画。

床下蓄熱

1階床は土間を厚くすることで蓄熱効果を持たせ、冬場の冷感緩和に貢献する計画。(ダイレクトゲイン)

気密性と断熱性

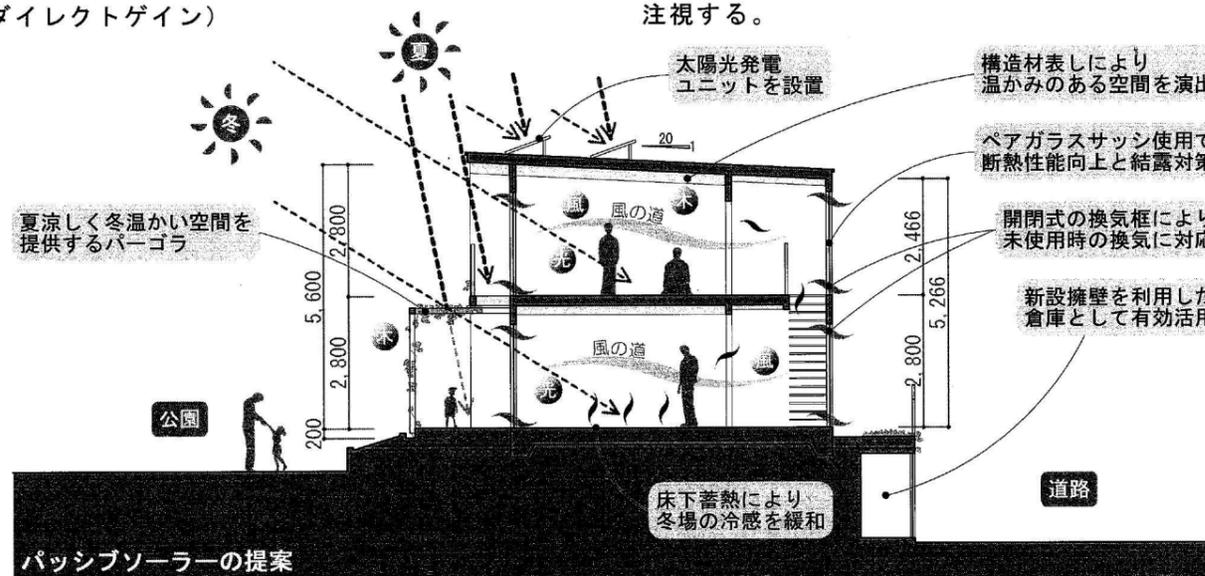
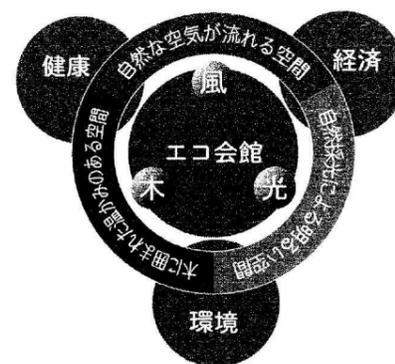
ペアガラスを採用することで断熱性能を向上させ、また外壁、屋根、2階床に断熱材を敷き込むことで結露対策や省エネ効果を図る。

太陽光発電

約3kw発電分の太陽光発電ユニットを屋根面に設置。オール電化と連動したエコ計画。

補助金の活用

横浜市が助成する太陽光発電のほか、県や国の補助制度は最大限活用する計画である為、今後の動向を注視する。



断面図B 1:150

エコについて

コスト、環境負荷について建設から解体までトータルで抑えることが本来のエコであり、そこには使用者、管理者の意識が重要な要素として存在する。今回の施設は高額な初期投資が望めないが、機械に頼らないパッシブデザインを行い、地域住民のエコ意識の啓発に貢献できればと考える。

